

授業科目名・形態	臨床薬理学	講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	早狩 誠		実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

各種疾患の治療薬が臨床で使用されるまでのプロセスを理解し、医薬品の安全・適正な薬物療法の姿勢を考察する。具体的に、医薬品が治療薬として使用されるには、臨床試験（治験）と呼ばれる厳しい審査過程を経る必要がある。この過程では、医薬品の可能性のある化合物を被験者に使用し、安全性・有効性を検証するが、時には有害事象が発生することもある。医薬品は多くの被験者の貢献によって市場に上がってきていることを知ると同時に、上場後被験者に該当しなかった高齢者・妊婦助産婦・小児等への薬物療法の注意事項についても理解を得る。

【到達目標】

- 1) 各種化学物質が医薬品として市場に登場するまでのプロセスを理解する。
- 2) 上記プロセスで行われる各種試験項目の重要性を理解する。
- 3) 上記プロセスの対象以外の患者群（高齢者・妊婦助産婦・小児等）への薬物療法を理解する。
- 4) 薬事関連法規を理解し、医療施設での医薬品管理を遂行できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 臨床薬理学概論1：臨床研究・治験の概要：臨床試験制度制定の歴史的背景
- 第2回 臨床薬理学概論2：臨床研究および治験等での医薬品の安全性・有用性の評価方法
- 第3回 臨床薬理学概論3：薬物の作用点、作用機序、および代謝。各種毒物の中毒および関連法規
- 第4回 免疫反応関連疾患：免疫反応関連疾患（アレルギー反応）の発症機序および治療薬
- 第5回 薬理遺伝学1：薬物代謝酵素の種類・代謝酵素の遺伝子多型に関わる留意点
- 第6回 薬理遺伝学2：薬物代謝酵素以外での遺伝子多型に関わる留意点
- 第7回 高齢者の薬物療法1：高齢者の生理機能
- 第8回 高齢者の薬物療法2：高齢者への薬物療法の留意点
- 第9回 妊婦授乳婦への薬物療法1：妊婦授乳婦の生理機能
- 第10回 妊婦授乳婦への薬物療法2：妊婦授乳婦および小児への薬物療法の留意点
- 第11回 抗生物質1：殺菌作用を有する抗生物質の作用機序および有害事象
- 第12回 抗生物質2：静菌作用を有する抗生物質の作用機序および有害事象
- 第13回 抗がん剤1：細胞周期阻害薬の作用機序および有害事象と対処方法
- 第14回 抗がん剤2：分子標的薬の作用機序および有害事象と対処方法
- 第15回 抗がん剤3・消毒薬：新規抗がん剤（免疫チェックポイント阻害剤）の作用機序、消毒薬

【授業実施方法】

基本的に教科書（薬理学）の内容に沿ったスライドを用い、参考資料を配布し講義形式で内容を丁寧に説明し、理解度を高める。

【授業準備】

予めシラバス内容を確認し、教科書（薬理学）における講義内容と関連する部分を一読し予備知識を得ておくことが重要である。なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生化学

【教科書等】

基本的に、1年次に使用した教科書『クイックマスター 「薬理学」 鈴木 正彦 著 サイオ出版』をを随時持参すること。

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

全講義終了後、定期試験（80%）を行い、講義中に行う小試験（20%）との総合点が60点以上を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

担当者は、青森県警科捜研の勤務を筆頭に、八戸赤十字病院薬剤部、弘前大学医学部法医学講座・生化学講座、そして同薬剤学講座に教授・薬剤部長としての勤務経験を有している。これらの勤務経験から、各種疾患に使用される多くの薬物の作用機序並びに中毒も含めた副作用の発現について多くの研鑽を積んできた。これらの経験を活かした講義を通じて患者への安全で良質な薬物療法が遂行できる医療従事者の育成を目指す。

【学生へのメッセージ】

講義内容は、専門用語が多く理解しにくい可能性があるが、常に医療の現場に身を置いている状況を想定して授業に臨むことによって、理解度が向上する。得た知識を貴重な情報源として将来の業務に役立ててほしい。